

採石場跡の自然景観を回復させた“ブッチャート・ガーデン”

1993年7月

兵庫県・ワシントン州友好提携親善訪問団 中嶋 邦弘

関西国際空港造成のための淡路島北部の土採り跡を復活再生のためのモデルとなる先進事例カナダの「ブッチャート・ガーデン」を調査した。

関西国際空港を造成する際に、対岸の淡路島北部の斜面から埋め立て用土砂が運び込まれ、採掘跡地は荒涼とした光景をさらけ出していました。

このような大量の土砂採掘跡や鉱山跡を自然を再生した事例が100年前のカナダにあります。カナダのブリティッシュ・コロンビア州のヴィクトリア市の15メートルも掘り下げられたセメント用石灰石採取場跡を1904年からコツコツと植物園へ公園化した「ブッチャート・ガーデン」、淡路の土採り跡を修景するモデルとしたい公園です。

セメント工場の経営者夫人のジェニー・フォスター・ブッチャートが家の傍に友人から贈られたスイトピーとバラ等の花を植えたことが、世界的に有名な造園となる第一歩でした。

その後、ブッチャート一家は庭園を整備続け、素晴らしいガーデンの評判も拡がって、多くの人々が訪れました。

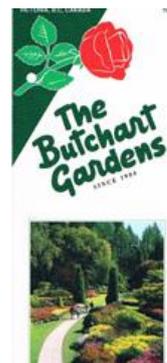
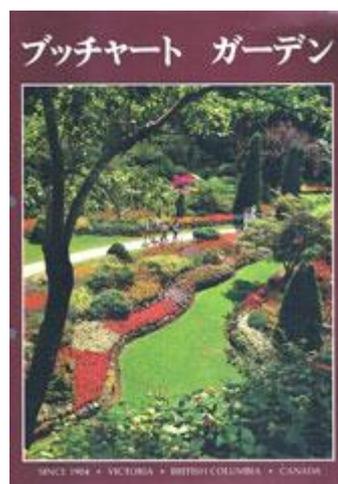
テニスコートがイタリアンガーデンになり、1930年にロスガーデン、温室が加わり、日本のサクラ566本の並木が出来上がりました。第二次大戦に入り、1943年にブッチャート氏、1950年に夫人も亡くなりましたが、夫妻の孫息子、イアン・ロス氏が後を引き継ぎ、大戦で閉鎖同然だった庭園の復活に努力されました。

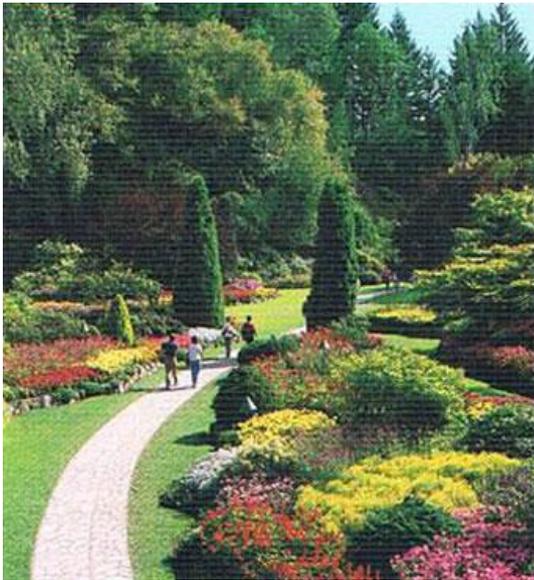
1964年開園60周年記念にロス噴水を設け、野菜畑を野外ステージに造り変えてきました。

誕生から100年以上を経過し、ブッチャート家の園芸による私的歓迎に始まった22ヘクタールにも及ぶ広大な花園公園には、毎年100万人以上が来訪しています。そして、2004年にカナダの国家史跡に指定されています。

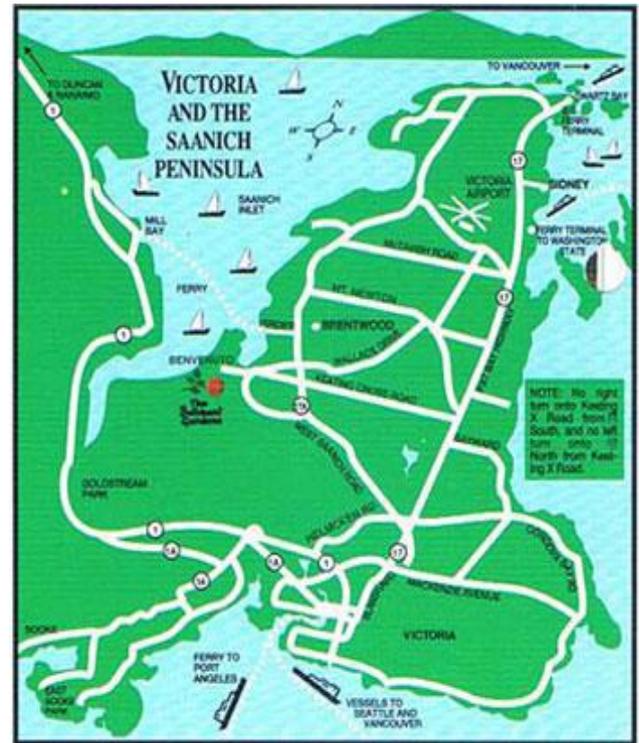
園内は、サンクンガーデン（低底庭）、ローズガーデン、日本庭園、イタリアンガーデン、地中海庭園の5つの中心的なエリアに分かれ、手入れの行き届いた芝生やパスが繋いでいます。3月から10月まで途切れることなく咲き乱れる花々、冬のクリスマスイルミネーション、スケートリンクも加わり、四季を通じての一年中楽しめます。

訪れた誰もが、これがあの殺伐とした採石場跡だったと想像することさえ困難な「ブッチャートガーデン」は、自然回復の究極の未来図であります。





「ブッチャート・ガーデン」の見事に再生したサンクンガーデンを見下ろす



カナダのブリティッシュコロンビア州の
ヴィクトリア市



ガーデン入り口の看板



ガーデンを見下ろす



ダイニングルームの外の庭園広場



日本庭園



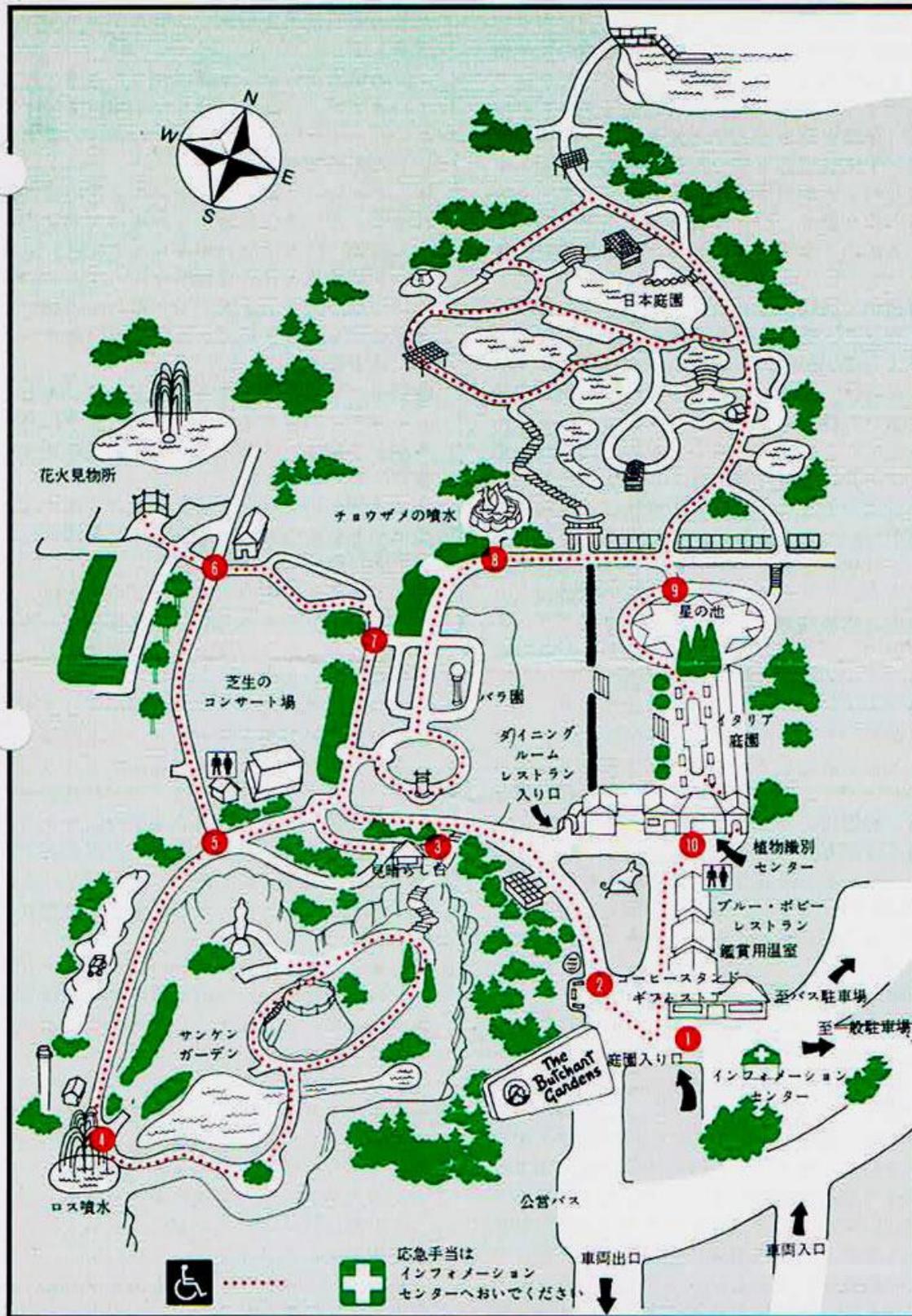
ダイニングルーム前のバラ園



何と綺麗なサンクンガーデン



ブッチャート・ガーデンへようこそ



地図に記された番号については裏面の説明をご覧ください

このガイドには以下の言語版がございます。

アラビア語、中国語、デンマーク語、オランダ語、英語、仏語、独語、ギリシャ語
ヘブライ語、伊語、韓国語、ポーランド語、ポルトガル語、露語、スペイン語、ウクライナ語

淡路島の関西空港埋め立て用土採り跡は、国際会議場・ホテルなどの「夢舞台」や国立淡路島公園と
なって、2000年3月から9月に「国際園芸造園博覧会（ジャパン・フローラ）」を開催、自然景観を
取り戻したモデルとして有名です。



石灰岩を採掘した跡の状況（1912年）



ブッチャート夫妻の屋敷のダイニングルーム